

ようこそ浜高へ

台湾の姉妹校30人が初訪問

浜坂高（新温泉町芦屋）と姉妹校提携している台湾の屏東県立東港高級中学（日本の高校に相当）の生徒や教員ら約30人が26日、浜坂高を訪れ、同校の生徒たちと交流した。台湾側が同校を訪問するのは

2019年の提携締結以来、初めて。歓迎式典のほか、授業や部活動の体験などがあり、両校の生徒たちはコロナ禍で途絶えていた対面での交流を通じて親睦を深めた。

（井上雅大）

コロナ乗り越え親睦深める

浜坂高は6年前、同町の国際交流事業の一環で台湾への海外研修を開始。姉妹校提携は、継続的な交流を望んだ浜坂高が屏東県に依頼して実現したが、直後に

新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われ、東港高中から同校への訪問は延期となっていた。この日、東港高中の生徒たちは4グループに分かれ

て同校の授業を体験。このうち1年の英語の授業に参加した生徒たちは、初めは緊張した様子だったが、徐々に日本の生徒と打ち解け、英語で互いに自己紹介



浜坂高生たちと英語で会話を楽しむ台湾の高校生（右端）＝26日、新温泉町芦屋の浜坂高

したり、ジェスチャーゲームなどをして楽しんだ。歓迎式典では、浜坂高生が勇壮な麒麟獅子舞やダンスパフォーマンスなどを披露。手厚い歓迎に、東港高中2年の王宇誠さん（17）は「（日本の）独特な文化を楽しむことができ、とても興味深かった」と満足げ。浜坂高1年の伊賀悠貴さん（15）は「普段、外国人と話す機会がなかったので楽しかった」と興奮気味に話していた。27日は、浜坂高生の案内で湯村温泉街を散策するほか、茶道体験なども行う。